

～甲斐国武田神社・恵林寺と県立美術館を巡る（バス旅）～

記 梅津博紀

◆実施日：2024年11月21日（木） ◆参加者：22名

◆行先：山梨県立美術館、武田神社、乾徳山恵林寺

◆担当：鷲見、戸田、柴崎、梅津、茂出木 他役員一同

●行程：小手指駅南口(7:45 出発)→入間 I C→談合坂 P A (休憩) →山梨県立美術館→武田神社→里の駅いちのみや→乾徳山恵林寺→勝沼 I C→談合坂 P A (休憩)→小手指駅南口

前日の急激な冷え込みと雨模様で天候が心配されたが、予定通り7:45に小手指駅を出発した。圏央道を経て、中央高速の談合坂 P Aで休憩し、甲府に着く頃には気温も上がり絶好の行楽日和となった。予定より30分ほど早く最初の目的地である山梨県立美術館に到着した。帰りの渋滞に遭遇しないよう運転手さんと相談して全体の工程を30分繰り上げることにした。

1. 山梨県立美術館 (9:40～10:50)

所沢より一足早く秋の気配を感じさせるエントランスを抜け重厚な本館に入館した。この建物の設計はル・コルビュジエに師事した前川國男による。山梨県立美術館は「ミレーの美術館」ともいわれ、ミレーの数多くの作品と自然主義的な風景画や農民画を写実的に描いたバルビゾン派の画家の作品、さらに山梨出身やゆかりの画家の作品を所蔵している。コレクション展A(ミレー館)に入るとまずミレーの「種まく人」が目に入り、続いて「落穂ひろい、夏」、「夕暮れに羊を連れ帰る羊飼い」などを有名な作品を堪能できた。続いてデュプレ・ルソー・コロラのバルビゾン派の「自然」、「農民」を描いた作品を鑑賞した。



山梨県立美術館本館

ここまでじっくり鑑賞したので滞在時間の多くを使ってしまい、次のコレクション展B、Cは駆け足の鑑賞となった。コレクションBの「秋の情景」は山梨出身の画家の日本画、「もう

ひとつの山梨モダン」では山梨出身やゆかりの画家の油彩画や木版画の展示があった。コレクション展C（萩原英雄記念室）は甲府市出身で日本を代表する版画家の萩原英雄の木版画、油彩画、水彩画を展示していた。これらは萩原より寄贈されたものである。山梨県立美術館の見



山梨県立美術館ケンタウロス像(ブールデル作)前にて

学を終え、10：50に次の目的地の武田神社に向かった。

2. 武田神社（躑躅ヶ崎館跡）（11:10～12:00）

山梨県立美術館から20分で武田神社に到着し、バス待機場でガイドさんと合流した。武田神社正面に架かる神橋を渡り、鳥居下の広場でガイドさんから躑躅ヶ崎館が築かれた経緯と歴史、大正時代になってからの武田神社創建の経緯の説明があった。躑躅ヶ崎館は武田晴信（信玄）の父信虎が石和から館を移したことに始まる。その後信虎・信玄・勝頼の三代が居住した。甲府の名は甲斐の府中（中世の守護が居住した館の所在地）に由来している。躑躅ヶ崎館は扇状地上に位置し、東西を藤川、相川に囲まれ、背後には要害山城を配置し、地形を巧みに利用している。



鳥居下広場にてガイドさんの説明を受ける



武田神社・表参道鳥居前にて

金運のご利益があるとのこと、皆さん落ち葉を拾い集めていた。本殿参拝後に行事の際に舞踊が披露される甲陽武能殿を通り西曲輪前に到着した。今は立ち入り禁止のため遠くから眺めるにとどめた。西参道からバスに向かうことになるが、途中で武田氏の特徴とされる柵形虎口があった。石垣は武田氏以降に築かれたが、基礎の石は武田氏時代のものとのことである。信玄の有名な言葉に、「人は城、人は石垣、人は堀、・・・・」があるので、館の物理的な守りは重視していないのかと思っていたが、それなりに防御の工夫がされていると感じた。

3. 里の駅いちのみや（昼食）（12:30～13:30）

信玄神社から30分、昼食会場の里の駅いちのみやに到着した。団体専用の大きな会場での昼食となった。メニューはほうとう御膳で、山梨の郷土料理「ほうとう」と季節の揚げ物、季節の三点盛、小付三点、焼物、季節の煮物、ご飯、香の物と盛りだくさんで、ワインを楽しむ人もいて大満足の昼食であった。昼食後、山梨特産品などのお土産の買い物時間となった。



里の駅いちのみや（干し柿づくり）

館は武田氏滅亡後に破却され、城下町は新たに築かれた甲府城に移った。1914年(大正4年)に大正天皇の即位記念に武田信玄に従三位が追贈されたのを契機に武田神社創建の機運が高まり、1919年(大正8年)社殿が竣工した。躑躅ヶ館跡、武田神社の概要説明後、表参道を通り抜けると本殿に至った。途中三葉の松があり、黄金色の三葉の松の落ち葉には

4. 乾徳山恵林寺(14:00～15:10)

いよいよ最後の目的地の乾徳山恵林寺に向かった。1330年(元徳2年)創建の恵林寺は臨済宗の名刹である。武田信玄の支援を受けた美濃の快川(かいせん)和尚の入山で寺勢を高め、1564年(永禄7年)に信玄が菩提寺と定めた。ガイドさんとは参道の中ほどにある四脚門(赤



恵林寺四脚門(赤門)



恵林寺三門

門:国の重要文化財)の前で待ち合わせとなった。赤門を抜けると三門に至る。織田信長の甲州征伐の際、恵林寺は焼き討ちにあい、僧侶100人以上がこの三門の二階に閉じ込められ焼き殺された。快川和尚は「安禅必ずしも山水を須(もち)いず、心頭滅却すれば火も自(おのずか)ら涼し」の言葉を残したといわれている。山門をくぐって正面に見えるのが開山堂で、



恵林寺開山堂前にて

快川和尚などの 3 人の像が安置されている。次は禅寺にしては珍しい大庫裡から本堂の正面を進むと左手に京都の有名な寺院にも引けと取らない石庭が姿をあらわし、砂の白さ、松のみどり、木々の紅葉と相まって清々しかった。本堂にはご本尊の釈迦如来が安置されていた。本堂を抜けた先には明王殿へと続くうぐいす廊下、まさにうぐいすの鳴き声のように歩く度に「キュ



恵林寺石庭

ッ、キュッ」と優しく鳴り響いた。明王殿には信玄の生前に摸刻させたといわれる等身大の不動明王（武田不動尊）が安置されていた。武田信玄公墓所の公開日でなく、残念ながら参拝はできなかった。次に江戸時

代甲府藩主であった柳沢吉保公墓所、柳沢吉保公霊廟を通り、恵林寺庭園に向かった。恵林寺庭園は国指定の名勝の池泉回遊式の庭園で、京都の天龍寺や西芳寺、等持院などにも引けをとらないといわれている。色づきはじめて木々と松のみど



恵林寺庭園

り、池の水にうつる景色に癒された。

恵林寺を 15:10 に出発し、中央道の談合坂 PA で休憩後、中央高速で帰路についた。渋滞に巻き込まれることもなく 17:30 に小手指駅南口に到着した。今回のバス旅は秋の甲斐路の名刹・名画・グルメを堪能することができ、皆、満足して帰途についた。

以上